

郡山市PPP/PFI手法導入優先的検討基準に基づく結果報告書

検討段階

PPP/PFI簡易導入可能性調査

事業実施課

保健福祉部障がい福祉課

施設名称

郡山市更生園

公共施設総合管理計画に基づく検討開始年度

2020年度

所在地

郡山市希望ヶ丘22番16号

定量評価結果概要 (担当：行政マネジメント課)

【前提条件】

- ①「建替」パターンについて、全体敷地面積を活用した「従来型手法」と「PFI手法」の比較
なお、今回の事業においては、現存建物の改修は検討していないことから、大規模改修の金額及びVFM算出はしない
- ②事業方式：「BT0 (Build Transfer Operate) 方式 (PFI法)」により計算
- ③事業期間：施設整備期間を「1年」及び「2年」の2パターン、維持管理運営期間15年
- ④収入項目：イコールフィッティングの観点から、「従来型手法」と「PFI手法」いずれもゼロ円で計算
(補助金・交付金・起債)
- ⑤簡易計算：国土交通省「VFM簡易計算ソフト」により算出
【VFM】施設整備期間が1年の場合22.1%、2年の場合21.8%

定性評価結果概要 (担当：事業実施課)

以下の理由から、PPP/PFI手法の有効性は高い。
■全国的に福祉施設に関するPFIの類似事例は少ないが、障害福祉施設の主たる運営主体は民間事業者であり、PFI導入への制約はない。
■希望ヶ丘学園旧園舎跡地も活用できることから、民間のノウハウを活かした施設機能の向上や行政では提供できないサービスなどを新たに付加することが可能であり、市民サービスの向上に資することができる。
■費用コスト面で考えるとPFIの有意性が高い一方、その他の手法においては補助金の活用が見込めず、財政負担の低減を図ることは困難である。
■市の業務量の縮減の面からみてもPFIの有意性は高く、他の公共サービスの向上に注力することが可能である。

総合的な評価結果 (担当：事業実施課)

郡山市更生園は開所から51年が経過しており、施設再整備の検討が求められることから、施設の利用状況や課題のほか、市民のニーズ等を把握し、PPP/PFIの活用可能性を探ることは必要不可欠である。
簡易的に実施した「定量評価」・「定性評価」の結果は、ともにPPP/PFI手法が有効であることから、継続してPPP/PFI手法を優先的に検討する。

次の検討段階

PPP/PFIの詳細な導入可能性調査を実施する

備考

VFM計算時、利率・SPCや資金調達費用・税率等については、過去のPFI案件平均等を活用
(長期借入金・上乘せスプレッドは、令和元年度「開成山体育施設劣化状況調査及びPPP/PFI導入可能性調査」の結果で算出した数値を採用)